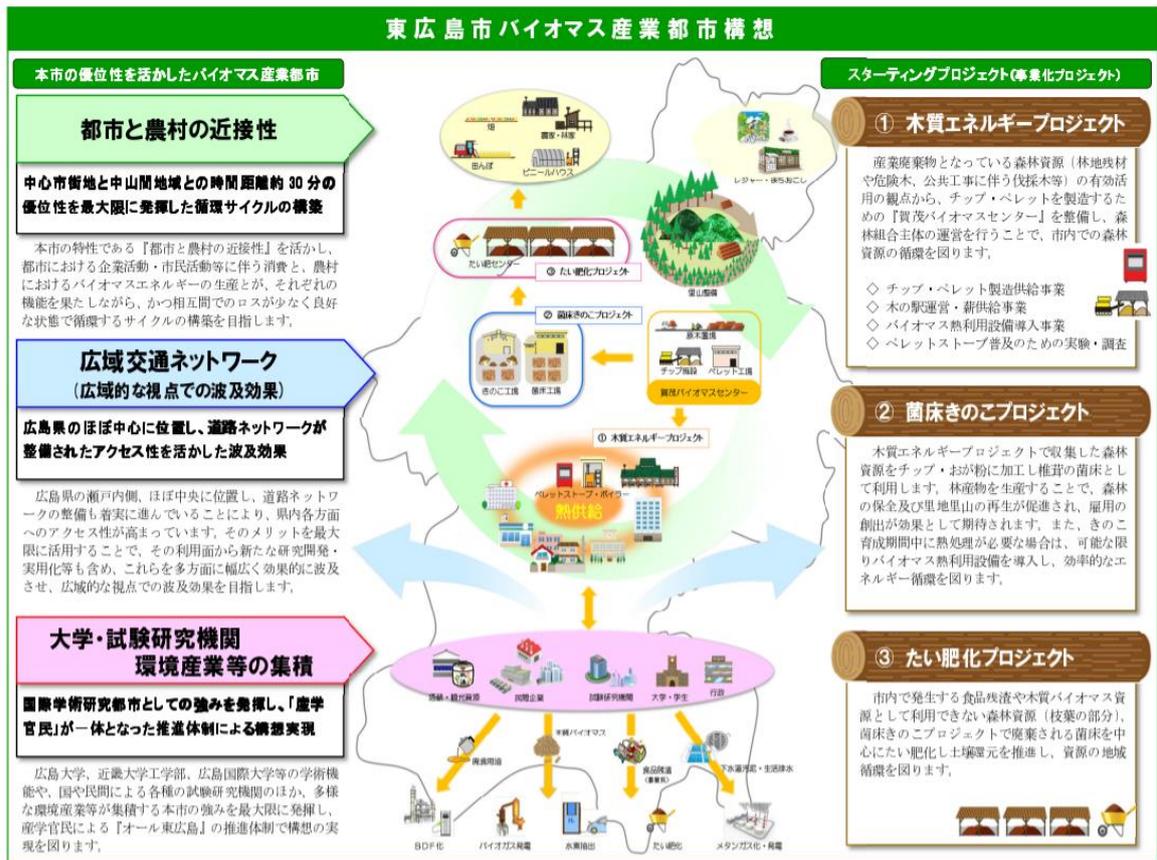


広島県東広島市

住所	〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号
市長	高垣 廣徳
HP	https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/index.html
バイオマス産業都市選定年度	2017年度
バイオマス産業都市構想	https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/material/files/group/38/1930001.pdf
担当部署	東広島市 産業部 農林水産課 生産基盤整備係
連絡先 TEL	082-420-0939
連絡先 FAX	082-422-5144
連絡先 E-mail	hgh200939@city.higashihiroshima.lg.jp



事業化プロジェクト1（木質エネルギープロジェクト）の概要

名称	①チップ・ペレット製造供給事業	
実施主体	賀茂地方森林組合 (賀茂バイオマスセンター)	
使用する技術	木質チップ・ペレット加工	
概要 (計画)	バイオマス原料	間伐材、開発支障木等
	生産量(t/年)	チップ：1,800t/年、ペレット26t/年 (R2実績 チップ：1855.9t/年、 ペレット：4.7t/年)
	熱利用	<ul style="list-style-type: none"> ・森林組合を主体とし、現在、産業廃棄物として処分している林地残材や危険木、公共工事に伴う市内伐採木を活用した賀茂バイオマスセンターを建設運営するとともに、そのセンターで木質チップ及び木質ペレットを製造し販売を行う。 ・非常用燃料の備蓄・災害時の市内主要施設へ供給する。



賀茂バイオマスセンター

(<https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/material/files/group/10/H2912tokusyuu.pdf>)

名称	②木の駅運営・薪供給事業	
実施主体	賀茂地方森林組合 (賀茂バイオマスセンター)	
概要 (計画)	バイオマス原料	間伐材等
	生産量(t/年)	1,000t/年、H31 2箇所目の開設 (R2実績 132t/年、2箇所目は検討中)
	熱利用	・山に放置されている林地残材や危険木を貯めおき、木材の流通、加工を行う「木の駅」を整備するとともに、薪の生産・販売を行う。

名称	③バイオマス熱利用設備導入事業	
実施主体	東広島市（公共施設） 民間事業者（民間施設）	
使用する技術	熱供給	
概要 (計画)	バイオマス原料	間伐材、開発支障木等
	生産量(t/年)	主要公共施設へのペレットストーブ及びバイオマスボイラー導入（R2実績 ペレットストーブ8台、バイオマスボイラー導入先検討中）
	熱利用	・主要公共施設（温水プール、福祉施設等）にバイオマスボイラーの導入を推進する。 ・主要公共施設（支所、地域センター、小中学校等）にペレットストーブの導入を推進する。 ・民間施設へのバイオマスボイラーの普及展開

名称	④ペレットストーブ普及のための実験・調査	
実施主体	広島大学・東広島市	
使用する技術	熱供給	
概要 (計画)	バイオマス原料	民間企業等の開発したペレットストーブ
	熱利用	平成29年度「広島大学地域連携推進事業」において、ペレットストーブの付加価値化・普及のための実験と調査を実施する。この実験・調査で得られた結果を政策に活かし、普及促進を行う ・小型・チムニーレス化の検討等

バイオマス事業の進捗状況

事業化プロジェクト	進捗状況
木質エネルギープロジェクト	これまでは地域の木質バイオマスを活用した単独施設単位での設備導入及びその波及効果での農林業振興を目下の目的としていたが、SDGsの観点や市の地域特性を踏まえ、既存の計画を再構築する必要が生じたことから、来年度にかけ、本市における木質資源の利用可能量や、活用シナリオの再検討を行う予定。

事業の経営状況

事業化プロジェクト	計画との進捗 ※	事業実施による効果
		効果
①チップ・ペレット製造供給事業	B	間伐材や開発支障木の有効活用や木の駅事業での地域材の受け入れによる地域の里山整備の促進などに効果を発揮している。
②木の駅運営・薪供給事業	C	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の木質資源の小さな循環に繋がっている。 ・2箇所目の開設はできていないが、木の駅事業の実績は増加傾向である。利用する地域住民もリピーターが多く、認知度は低いものの、取組みの定着がみられる。 ・薪供給についても、薪ストーブユーザーや薪の窯を使用する事業者等からの玉切りの薪の需要が高く取組みの定着がみられる。
③バイオマス熱利用設備導入事業	D	・熱利用が可能な施設への設置に向け調整中。
④ペレットストーブ普及のための実験・調査	—	・ペレットストーブ普及における設備面での課題が明らかになった。

A)計画以上に進捗している B)ほぼ計画通り C)計画より遅れている D)進んでいない

成功要因・波及効果（雇用増加、CO2削減効果等）

事業化プロジェクト名	成功要因
①チップ・ペレット製造供給事業	<ul style="list-style-type: none">・木質チップ製造においては、事業実施主体である森林組合が産業廃棄物処分業(木くず)の許可を持っており、逆有償で原料を受け入れていること。・バイオマスセンター専従の職員の雇用に繋がっている。

バイオマス産業都市推進協議会による支援の希望の有無（有・無）